

439 子宮全摘出術後の更年期障害発症と、耐糖能異常との関連性について

恵寿総合病院、羽咋総合病院*

小濱隆文、橋本慎太郎、平林はやと*

〔目的〕近年、糖代謝と卵巣機能との関連が注目されているが、更年期障害(CM)発症への影響に関する報告は極めて少ない。今回我々は、閉経前に子宮全摘出術(TH)を行った女性における、術前の耐糖能およびその後発症したCMについて、術前・術後の内分泌学的検索を含めて検討した。〔方法〕95年10月よりTH(付属器温存)を行った閉経前女性計94名において、手術前日に75gGTTを施行、糖尿病型(DM群)、境界型(DMb群)および正常型(C群)に分け、fasting insulin resistance index (FIRI)、術前(手術当日)および術後一週間目のE2、progesterone (Prog)、FSH、LH、PRL、さらに術後半年以内におけるCMの発症率(HRT有効例)について検討した。〔成績〕各群(DM群;13名45.1±4.2歳、DMb群;31名43.2±5.1歳、C群;50名44.3±4.4歳)におけるFIRIは、DM群1.3±0.7、DMb群1.5±0.6、C群1.1±0.5であり、C群に比べDMb群において有意に高かった。術前・術後のE2はDM群;128.7±20.0(ng/ml)・25.9±20.8、DMb群;90.2±85.0・48.0±45.1、C群;108.2±118.0・53.5±58.1と、全ての群において有意の低下を認めた。FSHはDM群;9.2±9.3(mIU/ml)・23.0±22、およびC群;9.3±7.5・13.7±13.3、で有意の上昇が認められた。ProgおよびLHは各群において有意な変化は認められず、またPRLは全ての群において有意な上昇が認められた。各群における術後半年以内のCM発症率は、DM群7/13、DMb群7/31、C群5/50であり、DM群において有意に頻度が高かった。〔結論〕TH後早期に卵巣機能の低下が生じ、糖尿病がその後に発症するCMの要因となることが示唆された。

440 更年期婦人の冠動脈疾患のリスクファクターとしてのホモシスチン、葉酸についての検討

茨城：取手協同病院

染川可明、若林 晶、原田美佐子、寺内智子、坂本雅恵

〔目的〕血中ホモシスチン濃度の上昇が冠動脈疾患のリスクファクターの一つとして注目され、また血中葉酸量がホモシスチン濃度の決定因子としての可能性を指摘されている。閉経前後の血中ホモシスチン、葉酸濃度と虚血性心疾患のリスクファクターとの関係、及びHRTの効果につき検討した。

〔方法〕当院更年期外来を受診した89名の女性(閉経前20名、閉経後69名に)につき血中ホモシスチン、葉酸、年齢、体重、Body Mass Index(BMI)、閉経後の期間(閉経後群)、血圧、Total Cholesterol(TC)、Triglyceride(TG)、HDL-Cholesterol(HDL-C)、LDL-Cholesterol(LDL-C)、Apo A1、Apo A11、Apo B、apo E、Apo C11、Apo C111、BUN、Creatinine(Cr)、Estradiol(E2)、FSHを測定、その関係を検討。

〔結果〕血中ホモシスチン値は閉経前群(10.1±5.9nmol/ml)、閉経後群(10.3±2.8nmol/ml)、葉酸値は値は閉経前群(8.8±1.1ng/ml)、閉経後群(9.5±3.9ng/ml)で閉経前後で差をみなかった。ホモシスチン値はCrとのみ、葉酸値は拡張期血圧とのみ有意の相関を示した。HRT(プレマリン+ヒスロン)投与3ヶ月後の値はホモシスチンの投与前高値群(>10.2nmol/ml)のみに有意な低下をみた。

〔結論〕ホモシスチンの濃度と葉酸濃度との関連はみられなかった。ホモシスチンの濃度に腎機能との関連の可能性が示唆された。HRTは高ホモシスチン血症婦人のホモシスチン値の低下を通じ冠動脈疾患を予防する可能性が考えられた。